

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 8 年度病虫害発生予察技術情報第 1 号について (送付)

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 1 号 (麦類赤かび病の防除の徹底について) を発表したので送付します。

赤かび病対策には、防除適期の薬剤防除を確実に実施することが重要です。

現在、麦類の赤かび病防除適期を迎えていますが、3月30日から断続的な降雨が続き、赤かび病発生に好適な気象条件となっています。確実な適期防除の実施に加え、降雨や曇天が続くなど、赤かび病が発生しやすい気象条件が続く場合には、2回目の追加防除を行ってください。

技術情報第 1 号

1 対象作物：麦類 (小麦、大麦)

2 病虫害名：赤かび病

3 生育状況および気象情報

(1) 3月30日以降に断続的な降雨があり、本病原菌の感染に好適な気象条件で経過している。

※感染好適気象条件 (孢子飛散好適条件)：

日最高気温 15℃以上、日最低気温 10 度以上で湿度 80%以上もしくは降雨直後

(2) 福岡管区気象台の1か月予報 (4月9日発表) によると、向こう1か月 (4月11日～5月10日) の気温は高く、降水量は平年並か多いとされている。

(3) 麦の生育は平年よりやや早く、出穂期も早まっており、赤かび病の防除適期を迎えている。

4 防除対策

(1) 赤かび病対策として、小麦および裸麦 (開花受粉性) では開花期 (出穂後 7～10 日)、二条大麦では蒴殻が押し出されてくる穂揃期の約 10 日後 (出穂後 12～14 日) の適期に1回目の薬剤防除を徹底する。

(2) 1回目の防除に加え、赤かび病に弱い品種では2回防除を確実に実施し、その他品種についても1回目防除後に降雨や曇天が続く場合は補正防除を実施する。なお、2回目の防除 (補正防除含む) は、1回目防除の 7～10 日後に行う。

(3) 液剤による薬剤防除の場合、散布した薬液が乾いた後の降雨であれば、防除効果に対する影

響は小さい。粉剤では、散布後6時間以内の降雨により防除効果が低下するので、降雨の合間に薬剤防除を行う際は、気象情報に注意する。

(4) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に小麦、大麦で農薬使用基準の異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺ほ場への飛散防止対策を講ずる。



赤かび病の発生状況（左：小麦、右：大麦）

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL:<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo.html>

または右QRコード①

①⇒



○X（旧 Twitter）で定期情報や警報等発出のお知らせをしています。

X（旧 Twitter）の本アカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

URL：https://x.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②

②⇒

